

農業農村工学会では、令和2年度に第8期研究期間（平成29年～令和2年の4年間）を終了したことから、この間のダム研究会の研究成果を広く農業用ダム技術者へ周知するとともに、参加者が抱える各ダムの技術課題の解決に向けた糸口を見いだすことを目的に当シンポジウムを開催します。近年は度重なる豪雨やため池の決壊等による流域治水への対応、内陸型地震や2011年東北地方を襲ったプレート型巨大地震による大災害を契機として、巨大地震への対応といった国土の強靱化を必要とする意識が、国全体に高まってきました。

また、第9期は従来の施設工学、ダム工学の知識に加え、保全管理工学という新たな学問体系を検討する期間でもあります。このため、第8期の成果のとりまとめが重要な位置づけになると考えており、今回のシンポジウムが新たな学問体系の構築にとって大きな契機になることを期待しています。なお、新型コロナウイルスの影響から、オンライン形式併用での開催を予定しています。

2021年11月9日(火)10時～17時

場所 東京都港区新橋五丁目15番5号 交通ビル会議室

参加費 無料 参加登録は dam2021@jsidre.or.jp まで

<p>10:00～10:10 挨拶 ・委員長 東京大学名誉教授 田中忠次 ・農林水産省農村振興局長 安部伸治</p> <p>10:20～17:00 講演</p> <p>1) 耐震技術の開発</p> <p>①大規模地震動に対する農業用ダムの挙動解析手法（液状化含む）</p> <p>10:20(1) 2016年鳥取県中部、2019年山形県沖、2021年福島県沖地震による農業用ダムの地震時挙動 京都大学名誉教授 青山成康</p> <p>10:40(2) H30胆振地方中東部の地震における農業用ダムの地震時挙動 前 農研機構研究領域長 増川 晋</p> <p>11:00(3) アースダム堤体内部の内挿技術と3次元計測を利用した地震応答解析 岡山大学教授 西村伸一</p> <p>11:20(4) Space-Time有限要素法によるダムの動的応答解析 京都大学理事・副学長 村上 章</p> <p>11:40(5) 特殊形式のダム（複合、アーチ）の耐震性能照査について 三祐コンサルタンツ執行役員 渡部大輔</p> <p>— 昼 食 (12:00-13:00) —</p> <p>2) ダムの再開発</p> <p>①ダム堤体嵩上げ</p> <p>13:00(6) コンクリートダム嵩上げ工事に伴う温度応力の計算方法と温度ひびわれ防止対策—ひずみ計による引張限界ひずみの算定— 三重大学名誉教授 浅井喜代治</p> <p>②地球温暖化適応策</p> <p>13:20(7) 事前放流による洪水軽減効果が大きいため池の選定について 神戸大学教授 田中丸治哉</p> <p>13:40(8) メタ統計的極値分布を用いた確率水文学の推定 岡山大学教授 近森秀高</p>	<p>3) 地下ダムの開発</p> <p>①地下ダム開発に係る設計・施工</p> <p>14:00(9) 地下ダム貯留水の水質変動とその規定要因 農研機構研究領域長 石田 聡</p> <p>4) ダムの保全管理</p> <p>①堤体の安定性（力学的・水理的）の確保と対策</p> <p>14:20(10) 盛土材などの不飽和土の振動特性について 東京農工大学名誉教授 向後雄二</p> <p>14:40(11) シアキーの強度解析とフィルダム天端の地震時挙動解析 岐阜大学准教授 西山竜朗</p> <p>15:00(12) スマートガビオンを用いたため池堤体の耐越水補強工の研究開発 新潟大学名誉教授 森井俊廣</p> <p>15:20(13) アースフィルダムの静的安定解析手法について NTCコンサルタンツ取締役 藤井 睦</p> <p>— 休 憩 (15:40-16:00) —</p> <p>②保全管理・運用</p> <p>16:00(14) ベントナイト系土質材料を用いた遮水層によるため池堤体改修工法の開発 鳥根大学名誉教授 長束 勇</p> <p>5) ダムの設計・施工</p> <p>①基礎地盤の強度評価・遮水性の評価</p> <p>16:20(15) 柔構造プレキャスト製ため池底樋の研究開発 神戸大学副学長 河端俊典</p> <p>6) 被災ダムに関する各種評価・分析</p> <p>16:40(16) ため池の地震被害と耐震性評価について—堤体材料の地震時強度低下の評価とその影響— 茨城大学特任教授 毛利栄征</p> <p>17:00 閉会</p>
--	---